

特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会
第17回通常総会議事録

1. 日 時 2017年6月10日(土) 12:45~14:15
2. 場 所 東京 芝 東京グランドホテル4F 芙蓉の間およびインターネット配信
3. 出席者数 28名
4. Engineer's Creed 唱和
PE 会員 西久保 東功氏 (PE-0253) のリードにより参加者全員で Engineer's Creed を唱和。
5. 来賓の紹介とご祝辞
NSPE (National Society of Professional Engineers) コディ・ベアヘーレン会長より、NSPE では Future of PE (PE の未来) についての報告書を間もなく発行する予定であること、JSPE との交流を今後も続けたいとの祝辞を頂いた (英語)。
JABEE (日本技術者教育認定機構) 有信 睦弘会長より、日本の技術士も国際化が急務となっており、昨年2月にMOU(協業覚書)を結んだJSPE との交流に期待しているとの祝辞を頂いた。
SAME (Society of American Military Engineers) 日本地区横田支部 板垣 麻耶 副会長より、地理的に近いJSPE との交流に期待しているとの祝辞を頂いた。
6. 総会成立確認等
進行役 横山 佳生 が開会を宣し、議事に入った。
議決権を有する正会員総数は176。定款第27条に基づく総会定足数は総数の3分の1である59以上。
本通常総会では計71名の議決権を確保 (出席者数:28、議決権行使者数:38、表決委任者数:5)
以上により定足数を満たし、総会として成立することを確認。
定款第26条により、議長は会長 川村 武也 がこれに当たる。
定款第30条により、書記が指名され、正会員 出家 克則 がこれに当たる。
定款第30条により、議事録署名人が指名され、正会員 柴山 美香、森山 亮および議長がこれに当たる。
7. 第1号議案
 - 7.1 2016年度活動報告
議長が2016年度の活動状況についての詳細を、議案書(JSPE17-007)を用いて説明。
 - ・2016年度活動方針
 - ・CPD セミナー&エンジニアサロンの開催
 - ・JSPE Day の開催
 - ・シラバス英訳支援活動
 - ・東京、神戸でのPE受験
 - ・登録相談会、博多、名古屋での会員交流会

- NSPE 2016 ダラス総会参加
- 季刊 JSPE マガジンの内容充実、刷新その他
- Review for FE Study Materials
- シラバス評価支援活動 6 件、同英訳支援活動 4 回
- SAME イベント 2 回参加、NSPE PE Reference 参加、JABEE 合同会議参加、国際委員会出席
- 会員数推移；ほぼ現状維持、PE 会員増加傾向
- 活動結果の課題
- 2016 年度 表彰会員

7.2 2016 年度決算報告

会計部会長・渋谷高広 より 2016 年度の決算及び資産保全状況について報告。

7.3 2016 年会計監査報告

監事・竹政 一夫 から報告があり、全て適正と認める。

7.4 質疑応答

7.4.1 2016 年度活動について

質問 1 (泉山会員 PE0129)

議案書ではなく事業報告書中に、JICA と交流との記載があり興味がある。いきさつ等について説明いただきたい。

回答 (横山理事、渉外担当 および 議長)

3 年ほど前に JICA と交流する機会があり、それを契機として JSPE が JICA の簡易団体となったが、昨年度 JSPE の国際性が評価され国際協力団体に格上げされた。JICA に対する費用支払い等はなく、他の登録団体に対して JSPE 行事の告知が行える、市ヶ谷にある JICA センター会議場を使用できる等の利点がある。

意見 (泉山会員 PE0129)

シラバス英訳支援活動の実績が 4 件程度に留まり、潜在ニーズのある準会員数に比べ過少との口頭報告があったが、2016 年度中に準会員から正会員に昇格した 8 名のうち半数の支援にはなったということとも解釈できる。今後とも自信をもって活動なされたい。

回答 (議長)

温かい励ましにお礼申し上げます。

7.4.2 2016 年度会計報告について

質問 1 (泉山会員 PE0129)

ボランティア受入評価益/費用が 2016 年度決算報告中で約 1500 時間分計上されているが、ここに会計処理やシラバス評価はどのくらい含まれているのか？ また、会計処理の労力を減ずるために 2017 年度クラウド導入するのなら、2017 年度予算案中でも同様に約 1500 時間分計上しているのはなぜか？

回答 (議長 および 渋谷会計部会長)

1500 時間の内訳は会計部会、会員部会など各部会 300 時間程度である。シラバス英訳業務時間は報酬を支払っているため、ボランティア時間には含まれない。クラウド導入がうまくいった場合、会員部会の従来業務負担は減るが、その分を他の会員交流業務などに回すという考えでボランティア時間数の見込みは 2017 年度も同様としている。

7.5 議案承認

議長が 1 号議案の審議承認を求めたところ、拍手により承認可決された。

8. 第 2 号議案

議長が、2017 年度新役員選任を説明。再任理事 11 名、新任理事 2 名、再任監事 2 名の計 15 名。また、前期理事のうち 4 名が退任することを報告。
また新役員による部会構成案も紹介された。

9. 第 3 号議案

9.1 2017 年度活動計画案

議長が、2017 年度活動計画案を説明。

年間方針を「技術分野をまたぐ、つなぐ Cross and Bridge Technical Discipline」とし、具体的には次の各事項に注力していく。

- ・「倫理」と「国際化」の能力向上に重点を置いた CPD セミナーの展開
- ・米国 PE ライセンス取得促進活動の継続
- ・対外交流の継続と対外発信の増加
- ・理事業務の効率化と会内諸活動間の連動強化

9.2 2017 年度活動予算 説明

議長が、2017 年度予算案を 2016 年度決算と比較しながら説明。理事業務効率化投資により業務委託費が増え、年間収支は 300 千円マイナスとなるが、2018 年度以降は収支均衡を回復する目論見。効率化投資等の内訳については、補足として次の項目が説明される。

- ・会計業務を税理士へ委託する案
- ・会員管理基盤をクラウドサービスへ移行する案
- ・会内諸活動の連動強化を図る案
- ・管理的経費の増加

9.3 質疑応答

質問 1 (泉山会員 PE0129)

部会が「特命」となっている理事が前年度は 3 名おられ、それが今年は 1 名となる見込み。特命の内容と成果を説明頂きたい。

回答 (議長)

3 名の特命理事は特定の部会に絞らずそれぞれの専門分野で活動いただいた。峯松理事は会員サービス効率化の検討から始まりウェブサイトも含めたクラウドサービスの検討に進展した。このため、今年度は広報部会として活躍頂く見込み。

寺田理事は茨城在住であることから、北関東に多数おられる会員の交流を取りまとめていただき、今年度も、北関東地区取り纏めの特命理事をお願いする見込み。

質問2 (田崎会員 PE0008)

私自身はワシントン州 PE で更新時の CPD 要求は特に無い。従い、JSPE には技術者の地位向上、エシックスの普及、若者への教育などの社会貢献・発信に期待するところ大であるが、残念ながらここ 10 年ほどは CPD セミナーを開催することだけに偏っていると感じる。会員費も高額であり、値下げがなされないのならば会員を止めようかとも考えている。

回答(議長)

CPD セミナーの開催自体が目的となつてはならない、対外発信等も重視すべきという観点は全く同意であり、それらも踏まえて新年度の活動方針を提案させて頂いている。会員費が必ずしも安くないという声があることも承知しているが、現在の収支構成のまま会員費を値下げすると、事務所賃貸費も払えなくなるなど不都合があり、当面は会員費を据え置かせて頂きたい。今後とも田崎さんのご指導を賜りたい。

質問3 (田崎会員 PE0008)

新たに税理士への委嘱を始めるということだが、私が理事を務める JPEC(日本 PE・FE 試験協議会)ではこれまで起用していた税理士への委嘱が無駄と判断し、やめた。会計ソフトを導入すれば、理事だけで十分会計業務をこなせるのではないか。税理士へ会計業務を丸投げすることには反対である。

回答 (議長および渋谷会計部会長)

過去 4 年間当会の会計業務を確立した渋谷理事が今回退任となり、一方現時点で会計業務を引き継げる理事が川村、阪井の 2 名であることから適正な会計業務を継続できるよう、また昨今の NPO 法改正、個人番号導入などにも適応できるよう、記帳と証憑管理に限定して四谷の紺野税理士へ委嘱したいと考えている。川村は会計ルールの整備、阪井は現金出納を担当するなど、税理士への丸投げとにならないようにする。当会では最新の NPO 会計ソフトを 4 年前から導入適用している。JPEC が税理士への委嘱を止めたことは今初めて知った。

質問4 (田崎会員 PE0008)

JSPE は創設以来、尊敬すべき会長、理事の方々により運営されてきたが、唯一の悪い慣習は会長や理事が一期 2 年ではなく複数期務めるようになったこと。新役員の多くが再任であり、この人事案には賛成できない。

回答 (議長)

役員が一限りで交代するのが理想であることは承知している。ただ現実には常勤職員等を置けないため、役員が事務雑務を引き受けて複数期続けないといけないということもある。新年度はこうしたことも踏まえ、クラウドサービスを導入することで役員の世代交代が円滑にできる環境整備も目指したいと考えている。

欠席会員からの質問書紹介 (議長)

ここで欠席された土屋会員 (PE0025) から提出された各議案への質問書を出席者にお配りし、3 つある質問事項を代読した上で、関係理事候補からの回答を申し上げる。

質問5 アンケートツール (SurveyMonkey) の総会開催通知利用に関して (議長代読)

今回総会開催通知と議決権行使の電子ツールとして SurveyMonkey が使用されたが、少し安っぽい印象を受け、個人識別も大丈夫なのかと感じた。同じツールを使うにしても有償版を使うとか、個人別パスワード発行などを検討できないか。

回答 （議長）

SurveyMonkey は一応有償版を契約し、今回使用したが、ご指摘の課題や受信環境によってはうまく受信できない問題があることも認識した。来年の改善に向け検討していきたい。

質問6 役員の新陳代謝促進について（議長代読）

現役員が多くの活動をしていることに感謝するものの、一方で後継会長を育てる取組み、副会長がいつでも会長代行できるよう準備、再任役員は部会を変えて多様な経験を積むなども不可欠と考える。

回答 （議長）

川村および阪井は細則規定により2年後には役員退任となる。ご指摘の趣旨を踏まえて今年度から2年後を見据えた人材育成などところがけていく。

質問6 会員管理クラウドサービス導入計画について（議長代読）

新規導入のクラウドにはどんな機能があるのか。また、年間使用料と初期導入費用とを開示して欲しい。

回答 （峯松理事、特命担当）

初期導入費として43万円、年間使用料は37万円となる見込み。会費納入記録なども含めた会員管理が行えるようになるほか、ソーシャルネットワークのような感じで会員同士が会員サイト上で交流する機能などがある。

議長が2号議案および3号議案の審議承認を求めたところ、拍手により承認可決された。

以上をもって、議案全部の審議を終了したので、進行役は14時15分閉会を宣し、散会した。

以上、この議事録が正確かつ真正であることを証します。

2017年6月10日

議長 川村 武也



議事録署名人 柴山 美香



議事録署名人 森山 亮



本年春より既にコミットしている行事があり、総会に参加できませんので、幾つかの質問を取り纏めました。ご高配お願い致します。

第 1 号議案 2016 年度活動報告および決算

・ Survey Monkey の活用について

総会議決権行使については、電子的な方法を行うことは時代の趨勢ですが、本人確認や情報管理については留意を要することは、ご承知の通りです。

電子議決権行使の場合は、個人別パスワードの配布を行うなどの配慮を行ってはどうか？また、Survey Monkey は、それ以外でも使い勝手のよいツールであるので、広告無し、データエクスポート可能な有償版を使用してはどうか？

そうすることで、Survey Monkey の宣伝などは表に出さずに、JSPE ロゴを前面に出したカスタマイズが可能になるのではないかと思います。

コンサルタント会社やその他の企業も、業務上で使用する場合には有償登録し、Survey Monkey という言葉を出さず団体ロゴで使うことが可能だと思います。

第 2 号議案 新役員選任の件

・議決の対象は理事・監事の承認だけであり、新理事の役割については、新役員により理事会で決定する内容であることは承知しています。ここでは、記載のある所属部会や役割分担予定について若干意見を申し上げたいと思います。

役員各位には、日頃より非常に多くの活動をしていただいていることは感謝しますが、当会を持続的に運営していくためには、部会長の役割を計画的にローテーションして、理事が複数の役割を順次分担していくことが、将来的に大切であると思います。

既にご議論はあったとは思いますが、会長職の Succession Plan も理事会の重要な検討項目の一つであります。また、副会長職は名前だけでなく、会長の代行をいつでもやれるように常日頃から準備できている役割でありますので、これも考慮に入れて頂く必要があります。理事会を指導する立場にある監事殿も宜しくご指導をお願いします。

この 1 年間是非全員で意識的に検討を深めて頂き、新陳代謝の促進を促していただきたいと考えております。

第 3 号議案 活動計画および予算

・会員管理クラウドサービスに関する予算措置について、もう少し説明をお願いします。

クラウドの初期カスタマイズ費用と年間発生する使用料費用を分けて教えてください。

また、どういう会員サービス内容をクラウドに乗せるのか？その構想を教えてください。

その他一般的提案として

昨今、私自身が所属する会社を含め本邦 3 エンジニアリング企業が、いずれも北米案件プロジェクトで大きな赤字を計上しております。米国 PE 資格保有者が比較的多いこれらの企業においてすら北米プロジェクトの遂行では反省点が多いという事態を非常に残念に思うとともに、是非 JSPE でこの話題について話し合ってみてはどうかと考えます。技術知識のみならず、北米独自の商慣行や制度についても JSPE は、見解を深めてみる必要があろうかと思えます。ご検討いただきたく。米国 PE 取得を唱える団体として、外部からも意見を求められることも念頭に置いて。

以上